

自己評価結果公表シート

鈴蘭台北町こども園

1. 教育・保育 目標

「喜びをもつ子ども」（どんなことも、喜びにかえて生きる力を育てる）

- ・努力する子ども
（自分からしようとする積極的な態度を養う）
- ・はじめのつく子ども
（その場の状況を判断して行動をコントロールする力を育てる）
- ・人の気持ちがわかる子ども
（いろいろな感情や情動を体験することで、人のことを思う心を育てる）

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した評価の具体的な目標や計画

- ・乳児クラスの保育の充実について
- ・様々な視点から見る乳児クラスの保育環境の整備

3. 自己評価の実施内容と評価項目の達成及び取組状況

自己評価実施時期	令和7年2月19日（水） 14:00～15:00
参加者	【北町】園長、副園長、主幹保育教諭、乳児クラス担当職員

評価項目	評価・結果	理 由
(1) 乳児クラスの保育の充実	B	一人一人の発達や興味関心に合わせて丁寧な援助を行っている。ただ環境の設定か、保育者の思いがずれているのか、一日のリズムが難しく感じている。更なる丁寧な援助、一人一人のリズムを大切にいくために、保育者同士の連携が課題。
(2) 保育環境（乳児クラス）	B	発達に合わせた玩具等を配置しているが、更なる学びが必要。一人一人のあそびの場の確保等課題がある。

4. 評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

評価・結果	理 由
B	・保育の現状 現状を職員間で共有し、同じ思いで保育することの大切さが浸透している。日々の保育を客観的にみて、見直し、また実践へとつなげていく。 ・保育環境 環境構成を見直す中で、子どもたちの動線や発達段階を考えることができている。「こどもにとって」を考える意識をもって、それを職員全員で共有しながら保育していくことが必要だと感じた。

※「3」「4」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

5. 公開保育の実施内容

実施日程	令和7年2月27日(木) 9:30~13:00
参加者	【北町】園長、副園長、主幹保育教諭、乳児クラス担当職員(6名) 【おっこう山】副主幹保育教諭、保育教諭(1名) 【山のまち】保育教諭(1名) 【桜の宮こども園】保育教諭(1名)
実施内容	○みてみて保育 ・0・1歳児保育実践 ・2歳児保育実践 ○ディスカッション

6. 施設関係者評価

おっこう山	<ul style="list-style-type: none"> ・当日、初めて出会ったけれど、ずっと横に来て一緒にあそぼうと関わりをもつ子どもが多く、日頃からいろいろな人との関わりを大事にしているのが伝わってきた。 ・子ども一人一人のリズムができており、生活しやすい環境が作られていた。 ・給食の始まりが一斉になってきていると言われていたが、一人一人が「食べたいな」と思ったタイミングで、手洗いして食事へ来ていたし、職員同士の連携も取れていて、落ち着いて食事へと移行できていた。
山のまち	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の場面で、配膳台の位置等が、子どもへの援助がしやすいように考えられていて、参考になった。 ・子どもの興味関心に合わせ、活動の導入方法などの工夫があり、参加していた大人も楽しめた。大人が楽しむことで、子どもたちもさらに楽しめるということを改めて感じた。
桜の宮	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が落ち着いているので、子どもたちも「見ていてくれている」という安心感の中で過ごしていた。 ・食事の場面で、「食べたい」と思った時に自分たちで手を洗いに行き、エプロンもつけようとしている姿が見られ、感心した。日頃から丁寧に関わっているからこそ、リズムがついていると感じた。

7. 今後取り組むべき課題

課題	取組み方法
乳児保育の充実	保育内容はもちろん、子どもたちの様子についても職員全員で共有し、更なる保育の充実を図る。また、園独自の魅力、子どもたちの成長を保護者にも視覚的に伝えていく。
乳児保育環境の見直し	安心安全な環境構成を、子どもたちの成長に合わせて、都度の見直しを行い、「子どもたちにとって」今、何を大事にすることが必要かを職員同士で意見を出しあうことを意識していく。